

アヌコロ アイヌ イコロマケンル ソンコ

国立アイヌ民族博物館ニュースレター



ANUANU

024

2026.07

アヌアヌ



Singing for the future ふじとこうへい 藤戸康平作 2025年 とうざいだんぞう 当財団蔵 / 第11回特別展示「アイヌ民族と博覧会ー150年の経験ー」の展示風景 はくらんかい

博物館のプロフェッショナル

展覧会の開催に至るまで

特別展示のご紹介 / 博物館Pickup! /

調査研究最前線^⑬ / 8月・9月のイベント情報 /

見て見て! 園内サイン^⑫ / ウポポイのレストラン情報

展覧会を開催するために
博物館職員が
どのようなことに
取り組んでいるのかを
ご紹介します!

詳しくは2ページへ!





博物館のプロフェッショナル

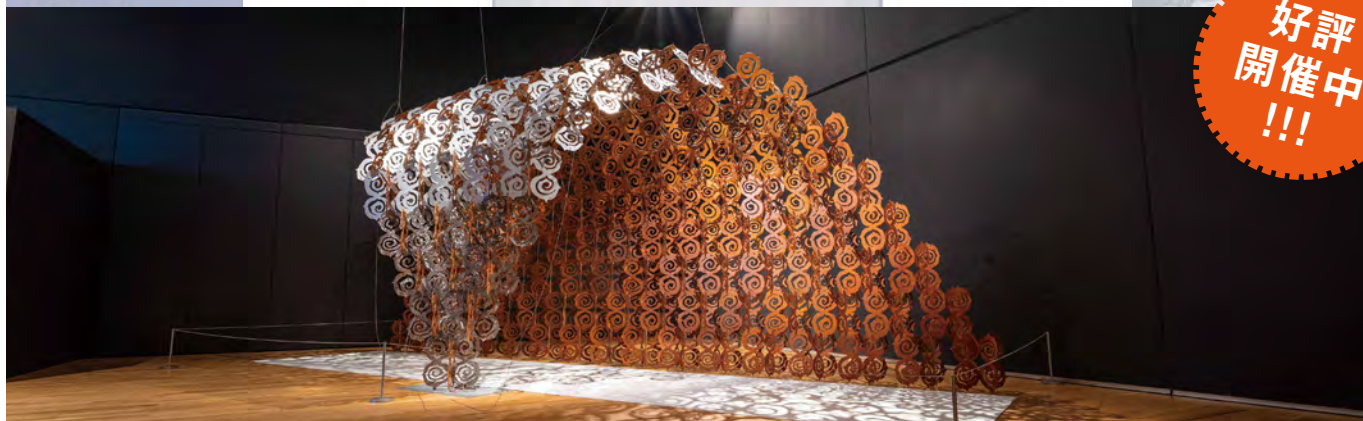
当館職員が博物館でどのような業務に携わっているかをご紹介します

国立アイヌ民族博物館 第11回特別展示

2026 6/20 (sat) - 8/23 (sun)

アイヌ民族と博覧会 — 150年の経験 —

好評
開催中
!!!



◆ 本展覧会開催までの背景

本展覧会は、国立アイヌ民族博物館が2021年から2023年まで実施した調査研究プロジェクト「近現代アイヌ民族史(誌)と博物館展示をめぐる実証的研究」と、2024年から実施中の「近現代アイヌ民族史(誌)論—(実践から)考える」の成果をもとに実現したものです。国立歴史民俗博物館や北海道大学などの研究者も参加し、近代以降のアイヌ民族とアイヌ文化をテーマにした資料の社会的受容を調査しました。

◆ 展覧会の趣旨

1851年のロンドン万博以降、博覧会は帝国主義や殖産興業を背景に各地で開催され、アイヌ民族もさまざまな形で関わってきました。その体験には、多様な思いや選択がある一方、葛藤を伴う側面もありました。本展示では、出場者・出品者として関わったアイヌ民族や仲介に関わった人びと、見る側と見られる側の関係に目を向け、博覧会の約150年の歩みをたどります。

✦ 展覧会ができるまで

2021年から調査研究を始め、展覧会完成まで約5年、館内外のメンバー9名が関わりました。



✦ 展示室をつくる — 展示室の造作・大型パネル・モニター設置

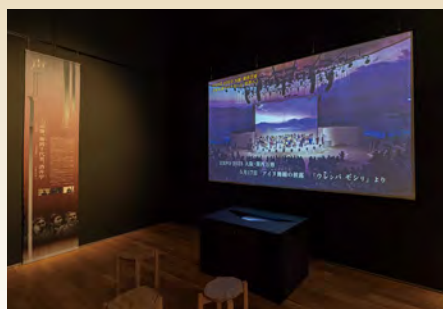
造作は、資料がよりよく見てもらえるように展示室の空間全体を展覧会仕様に整える作業のことです。



展示物に合わせて壁や台を新たに設け、展示空間を整えます。



幅270×高さ240cmの大型パネルも設置完了！
第五回内国勸業博覧会明細図
東新太郎 1903(明治36)年(株)乃村工藝社蔵



大阪・関西万博の映像は特に見ごたえがあります！

この業務には展示会の企画担当チームが携わりました

資料を展示する① 展示の計画から実際の展示まで 展示のイメージ作り



舞踊の動きを展示に盛り込むことに。



イメージに合わせて、各資料を展示します。



迫力ある展示になりました！
加藤峻也氏が着用した衣服・舞台のために自作したク(弓)
／個人蔵

資料を展示する② 資料の状態確認と展示方法

資料の状態と見やすさを考え、展示方法を検討し、作業を行いました。



資料の状態を考え、この衣服は斜台上に載せて展示することになりました。
山丹服 立教小学校蔵(国立アイヌ民族博物館寄託)



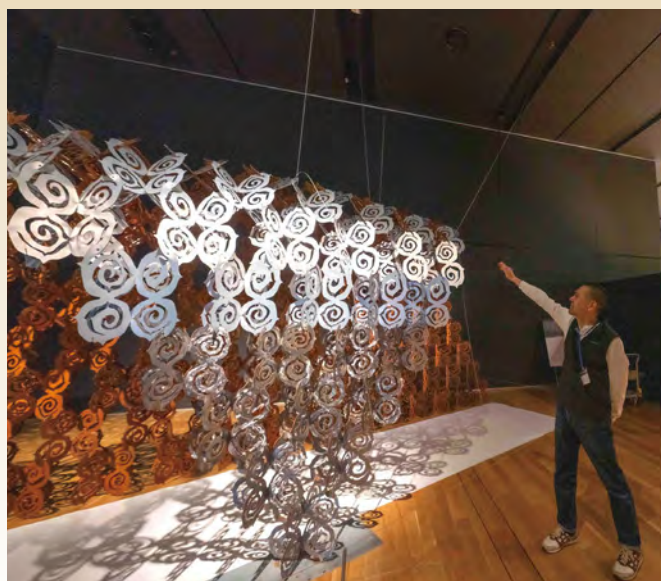
展示する前に、必ず資料の最終確認を行います。



見やすさとバランスを重視し、資料を斜台上に載せ、壁面に解説パネルを吊りました。

資料を展示する③ 展示を美しく見せる

資料を設置するだけでなく、照明やキャプションの位置といった細かな調整もしています。



博物館の照明は、光の強さ・明るさ、光を当てる範囲なども調整します。
ここでは作品が最も美しく見えるように、天井の照明を調整しています。

資料とキャプションの位置は、遠すぎず近すぎず、全体のキャプションの位置とのバランスを加味して、美しく見えるように調整しています。



展示の みどころ



シナリオチーム代表

立石信一

(教育普及室室長補佐)

本展の大きな特徴は、明治期から現在に至るまで、数多くの博覧会に関わりをもったひとりひとりの「声」を伝えようとしていることです。150年の間には、喜びや悲しみ、そして今でも心の痛みとして記憶されるなど、さまざまな経験があります。関わった理由も人によって異なります。そうした個人にとっての博覧会が、いかなるものであったのかを、言葉と資料によって伝えようと試みしたので、そうした点に注目しながらご覧いただければと思います。

展示会の基本情報、イベント情報は次のページへ！

アイヌ民族と博覧会

—150年の経験—

The Ainu and the Expositions 150years of experience

2026 6/20^{sat} - 8/23^{sun}

国立アイヌ民族博物館 特別展示室

【休館日】月曜日 ※6/22(月)、7/20(月)、7/27(日)、8/10(月)は開館、7/21(火)は閉館

詳しくは当館ウェブサイト
特設ページをご覧ください



第1章

アイヌ工芸品展示の
草創期から博覧会へ



和人社会で異域の産物として関心を集めたアイヌ工芸品、明治初期の博覧会での北海道「開拓」と産業振興の文脈への再編。

第2章

アイヌ民族の
出場

日本の植民地拡大を背景として、人の生活そのものを観覧させる「人間展示」の対象となったアイヌ民族。



第3章

アイヌ文化を
見せていく時代

戦後社会のなかで、変化する博覧会のあり方、主体化するアイヌ民族の博覧会への関わり、そして表現するアイヌ文化。



第4章

アイヌ民族と
博覧会のゆくえ

現代のアイヌ文化を表現する場を通して紡がれる人と人のつながり、連鎖する思い、文化の継承の回復。



①「近世蝦夷人物誌」二編巻之中 松浦武四郎著 1858年 国指定重要文化財 松浦武四郎記念館蔵 ②学術人類館集合写真 1903年 当館蔵 ③山丹錦 立教小学校蔵(国立アイヌ民族博物館寄託) ④大阪・関西万博のアイヌ舞踊公演時に加藤峻也氏が着用した衣服 個人蔵

関連イベント

●ギャラリートーク(各回 13:30から30分程度)

日英博に出場した曾祖母 貝澤こきんについて

8.8
土

おぬまのりこ
小沼史子

(民族共生象徴空間運営本部 伝承課主任)

▶聞き手:立石信一(国立アイヌ民族博物館)

博覧会に出場するということ
-1910年代の経験をたどる

8.9
日

これさわくらこ
是澤櫻子(国立アイヌ民族博物館)

〈声〉に耳を傾けて

8.16
日

たむらまさと
田村将人(文化庁アイヌ文化振興調査官)

●講演会(13:30から60分程度)

曾祖父 辺泥五郎の話と私の話

8.2
日

べてとしひろ
辺泥敏弘

(樺太アイヌの伝統弦楽器トンコリの製作・演奏家)

▶司会:立石信一(国立アイヌ民族博物館)

●トークイベント(各回 13:30から60分程度)

アイヌ文化の表象をめぐって

8.1
土

の もと まさひろ
野本正博(国立アイヌ民族博物館 館長)

立石信一(シナリオチーム代表)

川上さやか(本展覧会第4章担当)

大阪・関西万博でのアイヌ舞踊公演を終えて

8.11
火祝

加藤峻也・早坂駿

(大阪・関西万博 アイヌ舞踊公演 出演者)

▶聞き手:川上さやか

※敬称略

※全イベント参加無料(ただし、ウポポイ入場料が必要)です。
詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

ウポポイでみかける「トゥレツポん」は、タマネギやラッキョウに間違えられることもあります。オオウバユリという植物の鱗茎をモチーフにしたPRキャラクターです。この植物はアイヌ語でトゥレブといい、アイヌ民族はこの鱗茎からでんぷんを採取し、食料資源として蓄えていました。

展示室にはこのオオウバユリの鱗茎採集の様子を再現した場面が展示されています。この仕事は女性の主要な生産活動のひとつで、物語の中でも「オオウバユリを掘りに行く」という表現が、女性の日常的な仕事を表す比喩的なフレーズとして出てきます。

オオウバユリは種から7年以上たってようやく花を咲かせて実をつけます。それまでは鱗茎を成長させるために毎年、葉を広げます。鱗茎の採集はこの葉だけの個体を対象にします。採集時期は6～7月ごろ。ちなみに、でんぷんの採取工程は地域によって異なるので、ここでは十勝地方の事例を紹介します。まず、鱗茎を水洗いし、それを臼などで潰します。これを樽に入れてフキの葉などで覆い、1週間くらい寝かせます。そうすると発酵して柔らかくなります。次に樽に水を張って繊維質とでんぷんに分離し、でんぷんは水替えをしたあとに木綿の袋で濾すなどして純粋なでんぷん（一番粉）と繊維質が混じった

でんぷん（二番粉）に分けます。また、繊維質にはまだでんぷんが残っているため、ドーナツ状に形成（アイヌ語でトゥレブアカム）して乾燥させます。こうしてできたでんぷんは、おかゆのとりみに使ったり、団子にして鍋料理に入れたりして食べました。トゥレブアカムは臼で潰してでんぷんを取り、そのまま削っておかゆなどに入れるなどしました。

トゥレツポんをよく見ると、トゥレブアカムと実が付いた茎を持っています。ウポポイで見かけたらぜひ確認してみてくださいね。

（副館長 内田祐一）



オオウバユリを掘る様子



オオウバユリ



オオウバユリの花



オオウバユリ



ウポポイPRキャラクター トウレツポん
右手にトゥレブアカム、左手に実が付いた茎を持っています。

Report

色の材料を光で解き明かす

ハイパースペクトルカメラでアイヌ絵を分析する

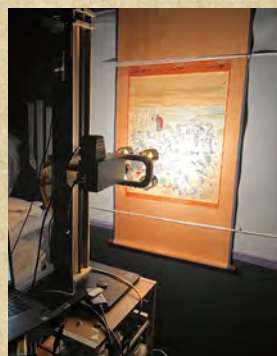
文化財科学グループ

赤田 昌倫・古田嶋 智子

「ハイパースペクトルカメラ」って何？

当館は、「ハイパースペクトルカメラ」という特殊なカメラを使って、アイヌ絵に使われた色の材料（色料）の種類を調べる研究を進めています。

普通のカメラは「色の見た目」を撮影しますが、このカメラは「色の情報を数値として記録」できます。人間の目には同じ青に見えても、使われた色料が「ウルトラマリンブルー（ラピスラズリを原料とする天然鉱物）」なのか別の色料なのかを、光のデータから見分けることができます。しかも、絵にふれることがないので、傷つけることもありません。



ハイパースペクトルカメラによる測定の様子



ハイパースペクトルカメラのライトとカメラレンズ

なぜアイヌ絵の分析が必要なのか

アイヌの人々の生活や風俗を描いたアイヌ絵は、当時の文化を知る上で貴重な資料です。しかし、どんな色料が使われていたかはほとんどわかっていません。色料の種類がわかれば、「いつ、どこで作られた作品か」「交易によってどんな材料が持ち込まれていたか」といった要素に迫ることができます。また、色料の種類に合わせた管理が可能になり、資料の保存にも直結します。

壁だった「細かすぎる部分」「薄すぎる色」

これまでも当館ではこのカメラを使った調査を進めてきましたが、大きな課題がありました。1ミリメートル以下の細い線の部分や、薄く塗られた肌の色・昆布の色など、淡い部分はデータが不正確になってしまい、「赤っぽいデータは出るが、何の色料を使っているか判別できない」という問題点がありました。

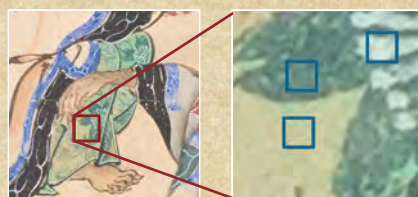
解決策は「高倍率で撮る」こと

今回の研究では高倍率で撮影ができる70ミリの長焦点レンズを使用しました。これにより、撮影する範囲は半分以下になってしまいましたが、1平方ミリメートルあたりに含まれる画素（ピクセル）数が従来の9倍へと大幅に増加しました。画素数が増えるほど、より細かい場所のデータが正確に取れるようになります。

この手法を実際に当館収蔵の平澤屏山筆「酒宴図」などに適用したところ、これまで「分析が難しい」とされていた線描の部分や薄い彩色部分でも、色の濃い箇所を集中的に狙って計測することで安定したスペクトルデータの取得に成功しました。



平澤屏山筆「酒宴図」
当館蔵



高倍率で測定した緑色部

研究がめざすもの

「描かれた人やモノ」の説明にとどまらず、「どんな材料を使い、どのように表現したか」という制作の本質に迫ること。この研究が実を結べば、展示の解説が一層深まり、アイヌ絵が持つ歴史的・文化的な価値を、科学の視点からも皆様にお伝えできるようになります。今後は学会発表や紀要での成果公表も予定しています。

だれでも アイヌ語教室

参加
無料

2026 8.29[±]

- 時間／11:30～(受付開始11:00)
14:00～(受付開始13:30)
各回30分程度
- 会場／国立アイヌ民族博物館 1階
交流室

- 定員15名 ～ 予約不要、当日会場にて受付(先着順)、
小学生以下保護者同伴
- 写真動画撮影・録音不可

一緒に発音したり動いたりしながら、子どもから大人まで、だれでも楽しくアイヌ語を学ぶことができるイベントです。昨年度まで実施していたシネッ、トゥッ、レッの3パターンの内容はそのままに、今年度はイネッとアシネッの2パターンの内容が新たに追加されました。参加したパターンに応じて、異なる5種類のスタンプがもらえます。スタンプが3種類たまった方には、だれでもアイヌ語教室オリジナルのノベルティを進呈。そのほか、授業を受けてくれた方全員に、単語や表現が復習できるワークシートをプレゼントしています。



2026年 8月9日のイベント情報

博物館では、解説だけでなく、アイヌ文化を体感できる内容のイベントをほぼ毎週行っています。はじめての方も、そうでない方も博物館で「楽しく学んで」みませんか？

展示体験

テンパテンパ してみよう！

参加
無料

2026 9.5[±]

- 時間／10:00～12:00
13:30～15:30
- 会場／国立アイヌ民族博物館 2階
基本展示室
探究展示 t.1, t.2, t.3

- 予約不要、当日会場にて受付(先着順)、
小学生以下保護者同伴
- 写真撮影OK！ 動画撮影・録音不可

「探究展示 テンパテンパ」は基本展示室にある、体験を通してアイヌ文化にふれることができるコーナーです。

ジオラマ・模型・タマサイ(首飾り)やサケ・シカの立体パズルなど、18の体験ユニットがあり、大人も子どもも楽しめます。

現在は全エリアを無人で運用しておりますが、このプログラムの時間帯だけは学芸スタッフがつきます。来場者の皆さまは、学芸スタッフと対話をしながらユニットを体験いただけます。

周りの6つのテーマ展示と合わせて

アイヌ文化を学んでみませんか。

*手指消毒をしていただいたうえ、体験いただけます。

*「テンパテンパ」とは、「さわってね」という意味のアイヌ語です。



- イベントに関するお問い合わせ 電話:0144-82-3914(受付時間9:00～18:00)
- その他にも多くのイベントを開催しております。詳しくは当館ウェブサイトなどでご確認ください。

見て見て！ 園内サイン

ウポポイの
園内サインをご紹介します、
皆さまにより広く
アイヌ語を知っていただく
コーナーです！

12 イコロ トウンプ／シサク イコロ トウンプ

基本展示室／特別展示室

国立アイヌ民族博物館の2階には、基本展示室と特別展示室があります。基本展示室は、開館中ならいつでも見ることができる部屋で、イコロ トウンプというアイヌ語の名前がついています。イコロは「宝物」、トウンプは「部屋」という意味です。ここでいう「宝物」は、展示している考古遺物、民具、文書、作品などの資料のことです。

特別展示室は、テーマ展示や特別展示などの展覧会がある期間だけ開いている部屋で、シサク イコロ トウンプというアイヌ語の名前がついています。シサクは「珍しい」「まとない」「格別な」などという意味です。展覧会は限られた期間に特別につくられます。ほかの施設から資料を借りてきたり、さまざまな人に協力してもらったりして、いつもは見せられないようなものも展示しています。特別展示室がオープンしているときには、まとない特別な機会としてぜひ見て行ってもらえたらと思います。

(研究員 深澤美香)



基本展示室のサイン



特別展示室のサイン



食 ウポポイの レストラン情報 「食」を通して アイヌ文化を気軽に体験



オハとジビエの専門店 海空のハル (32席)
エントランス棟 11時～閉園まで (L.O.閉園1時間前)



季節のオハウ定食 エント茶付



フードコートキッチン poro (90席)
エントランス棟 9時～閉園まで (L.O.閉園1時間前)



あげいも

エントランス棟にはリニューアルしたレストランとフードコート、

歓迎の広場にはカフェとスイーツショップがあります。

アイヌ文化由来の食材を用いた伝統料理や創作料理、オリジナルスイーツを提供します。

ゆっくり楽しむお食事や、ちょっとした休憩にぜひご利用ください。

※いずれも有料エリア外です。



カフェ リムセ (16席)
歓迎の広場 9時～閉園まで (L.O.閉園1時間前)



ユッカツカレー



メニューなど

詳しい
詳細はこちら！



プリンとソフトクリーム



sweets café ななかまど イレンカ
エントランス棟 9時～閉園まで



■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団 (ウポポイ内)

住 所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番1号

電 話：0144-82-3914 FAX: 0144-82-3685

メール：info@ainu-upopoy.jp

プログラム等の詳しい情報は
ウポポイウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>



※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」の意味です ※表紙タイトルロゴデザイン：小笠原小夜

国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第24号 編集・発行：国立アイヌ民族博物館 2026年7月発行 印刷：佐川印刷株式会社 ISSN 2435-8207